

「おとふけ」の 伝承

私たちのふるさと「おとふけ」。先人たちの労苦があり、いま、私たちの住む「おとふけ」がある。広報おとふけでは、音更町に根をおろし、ふるさとを築いてきた人たちの後世に語り継ぎたいお話しを紹介しています。



橋 正義さん

大正6年7月23日生まれ。
木野在住

生まれと幼少期

私 は大正6年に矢部で生まれ、今年で満98歳になります。祖先は富山県人で、矢部に入植した開拓団より数年遅れて、親戚を頼りに当地に來ました。

家業は農業でしたが、父が遊びに浪費し貧乏のどん底だった私たち家族は、矢部を離れ高倉で炭焼きをして生計を立てました。高倉尋常小学校まで1里以上の山坂を歩いて通学、精勤賞を受けたときはとてもうれしかったです。

15歳で弟子入り

そ の後、芽室の北伏古に移りましたが生活は上向かず、高等科卒業後の昭和7年、姉の嫁ぎ先である平田

板金(音更市街)に弟子入りしました。

朝4時に起きて夜10時まで、子守りをしながら拭き掃除や食事の支度、板金の見習いなどをしました。20歳で年俸は1000円の時代でした。昭和15年に一人前と認められ、8年間の奉公生活を終えました。

独立して

橋板金を開業

当 時、木野市街に板金業がないと聞き、ここで

の独立を決心しました。しかし、適当な土地と建物を借りられず、仕事を終え自転車で行き、夜ごと木野の地主を訪ね、何とか了解の返事をもらい現在の木野農協近くに開業しました。人一倍働きましたが、結婚当初は米や味噌を買うのに窮する生活でした。この頃は、十勝川温泉に向かう角の精米所から8線までの間には約60戸の家しかありませんでした。

農地改革で

自分の土地を持つ

昭 和19年に召集され、3カ月間、旭川の部隊に

行きました。兵舎はねずみとしまみだらで、寝ることもままならない所でした。

戦後に農地改革が行われ、私も土地を持つ地主となったのです。この地域の音更川は大きく蛇行し、大雨のたびに川は氾濫しており、その頃の私の土地は「木野」ではなく「下土幌」と言われていました。自分の土地を持った喜びを忘れずに、ほとんど手放すことなく今も大切に管理しています。

伝えたい

感謝の気持ち

今 の自分があるのは、あの時、地主の方が土地を譲ってくれたからです。お世話になった感謝の気持ちは今も変わりません。それは自分が暮らすこの町に対しても同じで、少しでもこの気持ちで形にして伝えていければと思います。

公園八幡宮の社殿造営から運営、鈴蘭公園にある塔の整備奉仕活動のお手伝いを長くやってきました。その根底には、多くの人とのご縁があり、



橋板金工業所と自宅(平成3年)

音更町の未来へ

元気で長生きしている幸せへの感謝と次世代を担う人たちに古き良き伝統を伝えていきたい気持ちがありました。

少

子高齢化など将来への不安も確かにあります。

私は幸い、商業施設なども近くにある便利な場所に住んでいるけれど、高齢者にとって医療や交通の問題は大変です。まだまだしっかりしているつもりですが、この年齢になって自宅で元気に暮らしている人は、木野市街でも数少ないかもしれません。音更に生まれて98年、町の歴史は全てを知っている私が語り継いでいく、そんな気概を持って毎日大切に生きています。